

## 令和7年度 専門領域推進部神経理学療法領域 活動報告

日時：令和8年1月28日（水） 19~20時

形式：オンライン開催（Zoom）

内容：脳卒中患者の予後予測

講師：富本 裕樹 氏（三友堂病院 脳卒中認定理学療法士）

参加者：49名

内容の詳細：

脳卒中リハビリテーションにおいて、客観的根拠に基づいた予後予測と目標設定は、二次的障害を防ぎADLを最大化させるために不可欠である。しかし、臨床現場ではその意思決定に難渋するケースも多い。本勉強会では、セラピストが自信を持って臨床介入できるよう、最新のエビデンスに基づいた予測指標と実践的な思考過程を提示することを目的とし企画した。

研修では、年齢や二次的障害の影響に始まり、歩行やADLの予後予測アルゴリズム、さらには家族の協力度を含めた「自宅復帰指標」まで、幅広く解説された。特にFIMやTWISTを用いた具体的な予測式に加え、実際の症例を通じた予後予測の展開が提示された。これらにより、予測データと臨床症状を照らし合わせ、各症例に最適化したアプローチを行う重要性を再確認する機会となった。

当日はオンライン形式ながら、ビデオオンによる対面に近い臨場感の中で実施された。質疑応答も活発に行われ、参加者の理解を深める有意義な時間となった。新人層にとっても今後の課題が明確化され、臨床へのモチベーション向上につながる実りある研修となった。

文責：済生会山形済生病院 小野 修